



# ことしば



2月号

【学校教育目標】 「挑戦し、未来を拓く『琴芝っ子』の育成」



3学期が始まって早1ヶ月が過ぎました。1月には、大寒波が押し寄せ、宇部市でも久しぶりの大雪となりました。雪質もよく量も多かったので、子ども達は歓声を上げながら、雪と戯れ、学校や地域の至る所に雪だるまが誕生していました。



朝の健康カード確認

一方で、新型コロナウイルスの猛威は収まらず、1月下旬には山口県が地域の感染レベルを『レベル2』に引き上げ、更なる感染予防を行うこと

になりました。そこで、保護者の皆様には、毎朝の検温、子ども達の健康状態、同居のご家族の健康状態を確認していただき、発熱等の風邪症状がある場合には登校を控えることや登下校中のマスクの着用についてお願いしたところです。その上で、子ども達の教育活動が後退・中止とならないよう、できるだけ感染対策をとりながら工夫して進めていきたいと思っています。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



## 締めくくりをしっかりと ~終わりよければ すべてよし~

3学期はまとめの学期です。『終わりよければ、すべてよし』という言葉があります。これは、『終わりが最も大切であり、終わりがよければその過程は問題にならない』という意味です。私は「終わりさえよければ、それまではいい加減でもいい」ということではなく、「**終わり（結果）**がよければ、これまでの失敗は失敗ではなく、**成功のための糧であり無駄ではなかった**」というふうにとらえています。6年生は、卒業まで50日不足（登校する日数は30日余り）となりました。小学校生活を終え新しい世界へ羽ばたく6年生はもちろん、進級する各学年の子ども達一人ひとりのこれまでの努力や頑張りが、それぞれの次のステップにつながるように、最後のまとめをしっかりとしていきたいと思えます。

学校、家庭、地域で子ども達の見せる顔は様々です。学校、家庭、地域が力を合わせて、その時その時の、その場その場の、子ども達のよさや成長した姿をしっかりと認め励まし、新しい学年へつないでいきたいものです。

### 【人事異動のお知らせ】

非常勤講師 岡本 昭子

1月から、子ども達の教育活動を支援していただいています。よろしくお願いいたします。



### 校長のつぶやき

### 今年の節分は『2月2日』。立春は『2月3日』



例年2月3日といえば『節分』です。しかし、今年は2月2日が節分となります。節分とは、読んで字のごとく季節の分かれ目のことで『立春』の前日です。今年の立春は2月3日なので、節分は2日となります。本来は『立夏』『立秋』『立冬』の前日も節分ですが、今では年の初めである春、『立春』の前日を節分と呼ぶのが一般的です。では、なぜ今年の立春は3日なのでしょう。

日本では、1年を春夏秋冬の4つに分け、さらにそれぞれを6つに分けた二十四節気で季節の変化を表現しています。季節が変わるのは地球が傾いた状態で太陽の周りをまわっている（公転）からで、1年で1周します。しかし、それはちょうど365日ではなく、365日と約6時間、そのずれを調整するために閏年があります。それでも、太陽が立春の位置を通過する時間にわずかなゆらぎがあるため、立春の日がずれるそうです。立春がずれると当然その前日の節分もずれるというわけです。節分が2月2日にずれるのは、なんと124年ぶりだそうです。37年前は節分が2月4日、立春が2月5日だったようです。興味のある方は、二十四節気や地球の公転等調べてみられてはいかがでしょうか。

ということで、暦の上ではもう春です。日本では、節分に豆をまき、厄払いをするという伝統的な習わしがあります。豆をまく時に多くの地方では「鬼は外、福は内」と声をかけながら行います。無病息災を願い健康を害する「鬼」とともに、自分の心の中の「鬼」（気の緩みや怠け心）を退治したいものです。月日は変わらず流れていきますが、だからこそ人は昔から節目を大切にしているのではないのでしょうか。私達も先人の知恵に学び、節分に豆まきをしながら今一度気持ちを引き締めたいものです。